

令和 7 年度「二海のビジネスを考える」授業がスタートしました

6 月 10 日（火）株式会社木蓮より、中田拓希さんと小山内洋子さんをお招きし、第 1 回の「二海のビジネスを考える」授業が 1 年生から 3 年生までの全員参加で実施されました。1 時間目はお二方の自己紹介のあと、緊張をほぐすためのアイスブレイクを実施し、生徒は自分の考えと他人の考え



は異なるということをあらためて実感することができました。2 時間目は、八雲高校を卒業し、二人の子の父である中田さんの視点から、八雲の未来に対する考えを述べていただき、「是非みんなで、ふる里八雲を思う心を育んでいきましょう」とエールをおくられました。また八雲を訪れる大学生との交流など、校外の方々とたくさんコミュニケーションをとることもこの授業に取り入れるなど計画を話されました。最後に八雲の人口は現在の 14,000 人から 2050 年には 7,000 人へ減少するという国の試算があることを伝え「あらためて大義をもって、将来何がしたいのかを考えましょう」と生徒に投げかけました。

この授業は、今後 5 回程度実施し、1 月には生徒による発表会を行う予定です。

今回は 7 月後半に三つのグループに分け、調査研究テーマを設定していく予定です。



6 月 12・13 日、札幌において「第 70 回北海道高等学校ワープロ競技大会」が開催されました。

全道各地から 20 校 99 名の生徒が競技に参加しました。

10 分間に入力した文字数－（ミス数×10）＝得点という基準で競われました。

本校からは、3 年折戸優大君、千葉勇磨君、安田季芭さん、2 年山鹿愛鈴さんが出場しました。札幌ライフオートホテルの会場の静寂の中でタイピングの音だけが響く緊張感あふれる空気の中、本校生徒は、なかなか普段の力を発揮することが難しかったようですが、団体 14 位（上位 3 名の合計 2,504 点）、個人では山鹿さんが、989 点で 25 位という結果を残しました。入賞への道のりは遠いですが、次年度も頑張ってもらいたいです。

簿記・会計を学ぶメリット

大嶋 武史

以前から「簿記・会計」を指導していて心に引っかかっていたことは、「将来、役に立つのか」という点でした。大学で財務諸表や財務分析計を学んだ私にとって、高校簿記の教科書の内容は疑問だらけで、当初理解に苦しみました。確かに高校で真摯に学び、その結果として有益な資格を取得することは、就職や進学等に有利となります。しかし現在の事務職という職種において、簿記会計の知識は、どれほど役に立つのでしょうか。経理部門においては、ICTが進み、仕事を行う上でオペレーションスキルは求められますが、簿記会計の知識が必要となるとは考えにくいのです。以前は「総合実践」で、模擬会社の仕事として、伝票を起票したり帳簿に記入したりしましたが、それらも過去の話です。

私は現在、「簿記や財務会計を学ぶ皆さんは幸運です」と伝えています。

かつて郵便局へ貯金すると10年間で倍額になる時代がありましたが、日本人にとって、長く「貯蓄は美德」の時代が続きました。子どもの頃、お年玉を銀行に預金すると褒められたのです。金融機関で格差はありますが、現在は100万円を1年間定期預金として預けても、利息は1,600円程度（税引き後）でしょう。

2019年に金融庁の「市場ワーキング・グループ」が発表した報告書をきっかけに「老後2,000万円問題」が話題となりました。この報告書では、平均的な高齢夫婦の場合、老後30年間で約2,000万円の金融資産が不足する可能性があるという内容が報告されました。その結果低金利時代に将来に不安を抱えた人々が求めたのは、「貯蓄から運用」への変化でした。資産を増やさなければならない。しかし多くの日本人はその方法を知らないのです。学校教育において「資産運用」の学習はありません。そこで思い出したのが「モノポリー」でした。私には3歳上の従兄達がおり、小学生の時によくボードゲームで遊んでくれました。「モノポリー」は1930年代からアメリカで販売されたゲームです。不動産を取引し、資産を運用するゲームです。日本でも1968年にタカラ「人生ゲーム」が発売されましたが、根本的に内容は異なります。欧米では子どもの頃から「資産運用」を学んでいると聞いていますが、ゲームの違いがそれを表しているなと感じました。

さて日本政府は2024年「新NISA」（少額投資非課税制度）を導入し、国民に資産運用を勧めています。しかし多くの日本国民は「資産運用」を学んでいないのです。その知識がないが故に、様々なトラブルも発生しています。

そこで先ほどの話になりますが、総合ビジネス科のカリキュラムでは、「資産運用」を学ぶことができます。これは今後の人生を考えた場合、資格取得よりも遙かに大きなメリットではないでしょうか。

総合ビジネス科で学ぶ生徒には、「新NISA」等も活用できる大人になってもらいたいと考えています。

